

## 全 行 動 記 録

- '74 5月 グループ結成  
6月 北大低温研究所制作の流氷映画鑑賞  
7月 ・紋別流氷研究所訪問 (三井・近藤)  
29日 ・小樽赤岩でロッククライミングとスキンドайビング訓練合宿  
~80日 (丸山・斉藤・大江・吉田・加地)  
8月 4日 知床半島海岸線一周(ウトロ→ラウス)偵察  
~11日 (丸山・中野・斉藤・大江・吉田)  
10日 ・ラウスの子出藤氏宅訪問  
(丸山・中野・大江・吉田)  
9月25日 知床半島ルシャ番屋・ホロモイ番屋に食糧と装備のデポ  
~27日 (大江・吉田)  
10月 小樽-石狩間でトランシーバー感度実験  
(三井・丸山・中野・三沢・大江・吉田)  
12月29日 寒冷地での装備実験  
} ・根釧原野-丸山・関尾・吉田  
'75 1月 6日 ソリ・キャンピングガス  
・風連湖-中野・大江  
トランシーバー

以上の他、流氷グループの丸山・中野・大江・吉田らが中心となった行動に次のものがある。

- '74 5月~7月 日曜日(合計日数8日間)  
小樽赤岩におけるロッククライミング  
11月22日 羊蹄山登山  
~24日  
12月19日 春香山→ヘルベチア→朝里岳のスキーツアー  
~24日

月日	キャンプ地	天候	気温(時間)	本隊	サポート隊	行動時間
2 23	鱒 浦	○	-12(18)			
24	北 浜	○	-14( 6)	A <sub>1</sub>	B <sub>1</sub>	10:45 16:20
25	浜 小 湊 水	①	-20( 6) -12(21)	A <sub>1</sub>	B <sub>1</sub>	9:00 15:30
26	止 別	⊗ <sup>強風</sup>	- 8( 7) -12(18)	A <sub>1</sub>	B <sub>1</sub>	9:00 15:00
27	斜 里	○		A <sub>1</sub>	B <sub>1</sub>	8:30 15:30
8 1	峰 浜	⊙→①	-23(18)	B <sub>1</sub>	A <sub>2</sub>	8:20 18:00
2	知 志 泊	①		B <sub>1</sub>	A <sub>2</sub>	9:30 14:30
3	真 鯉	①		B <sub>1</sub>	A <sub>2</sub>	9:20 15:00
4	ウ ト ロ	①		B <sub>1</sub>	A <sub>2</sub>	8:00 15:20
5	ウ ト ロ	○				
6	イワオベツ	⊙		O <sub>1</sub>		9:20 18:00
7	イダシュベツ河口	⊗→①	-18(21)	O <sub>2</sub>		8:15 16:30
8	チャカババイ川 ルシヤ番屋	○	- 6( 6)	O <sub>2</sub>		8:20 15:30
9	チャカババイ川 ルシヤ番屋	⊙ <sup>強風</sup>	+1.5( 6:30) + 7(12:00) + 4(18:00)	O <sub>2</sub>		
10	ポロモイ番屋	①→⊙	-10( 4) - 8(21)	O <sub>2</sub>		7:30 15:00
11	知 床 岬	①→⊙	-10( 6)	O <sub>2</sub>		10:00 14:00
12	ベギンノ鼻	⊙	- 8(21)	O <sub>2</sub>		8:00 16:15
13	ラ ヴ ス	⊙		O <sub>2</sub>		9:30 16:00

(注) ○:快晴 ①:晴 ⊙:曇り ⊗:雪

A<sub>1</sub> : 三井(L) 近藤(SL) 三沢 吉田  
A<sub>2</sub> : 三井(L) 近藤(SL) 吉田 小笠原  
B<sub>1</sub> : 丸山(L) 栗原(SL) 中野 大江  
B<sub>2</sub> : 丸山(L) 中野(SL) 三沢 大江  
O<sub>1</sub> : 三井(L) 丸山(SL) 中野 大江 吉田 小笠原  
O<sub>2</sub> : 三井(L) 丸山(SL) 中野 大江 吉田

## 海水の分類

海でみられる氷(広義の海水)はその生れにより海水、淡水氷、陸氷に分けられる。海水とは海水からできる氷を、陸氷とは氷河の海に浮かぶ部分とそこから分離して漂流しているものをいう。また淡水氷とは塩分の濃い河口で作られる氷や、河や湖から運ばれた氷をいう。そのうちわれわれが一般に「流水」と呼ぶところの氷は海水の範疇に入る。(陸氷の漂流しているものも流水と呼ぶが、これは日本近海では見られないので除外する。)

海水は発達段階、移動性(定着氷と流水)、構造、表面状態、融解段階によって分類されるが、ここでは今回の計画に関係のあるものだけについて説明を加える。

### 1. 発達段階

#### a. 新成氷(New Ice)

##### イ. 氷晶(Ice crystals)

水中や水面にできる針状または薄板状の氷の結晶。

##### ロ. 氷泥(Ice slush)

氷晶が凍りついて水面上に集ったもの。斑点状またはすきまのない薄層状で色は灰鉛色。氷泥に覆われた海面は光沢がなくくすんでいる。

##### ハ. 雪泥(Snow slush)

冷えた海面に大雪が降ってできる粘りかゆ状のもの。

#### ニ. 綿氷(Sludge)

直径数cmのもろい白味がかった小氷塊。氷泥、雪泥、ときには底氷からできる。

##### ホ. 底氷

海底(または水中)でできる海綿状の小氷塊、ときには水面上に浮び上る。

#### b. 軟氷(Ice rind)

##### イ. はす葉氷(Pancake ice)

直径数cmから8~4mまで、厚さ10cm以下の円板状の氷で風やうねりのために氷片同志互にぶつかって、縁辺がまくれあがっている。

##### ロ. 氷殻(Ice rind)

薄くもろい殻状の透明な氷できらきら光っている。海がおだやかな時、とくに淡水で、氷晶や氷泥から直接できる。波でたやすくこわれガラス状の破片となる。

##### ハ. 軟氷(Young ice)

波やうねりで容易に曲る厚さ10cm以下の薄い弾力のある氷。圧縮されると階段状に成層するのが特徴。

#### c. 灰色氷(Winter ice)

厚い一冬氷への移行段階にある厚さ10~80cmの氷、軟氷や氷殻が発達してでき、また時にははす葉氷が凍りついてできる。

##### イ. 板状軟氷(Young ice)

厚さ15~80cmの水で軟氷より弾力性に乏しく波で碎ける。

ロ. 薄い一冬氷 (Medium winter ice)

厚さ15~80cmの水。板状軟氷との違いは、圧縮されると氷丘になりやすく、成層し難いこと。

d. 厚い一冬氷 (thick winter ice)

厚さ80~70cm、時にはそれ以上になる。灰色氷の次の発達段階。

## 2. 氷の移動性

### a. 定着氷 (Fast ice)

密に凍りついた氷野で陸岸や島や浅瀬に接しているもの。浅瀬に坐礁した独立氷塊も定着氷に属する。

#### 1. 沿岸氷 (Shore ice)

定着氷の基本形で、岸に接着した密氷野をいう。海が浅い時には底にも接している。潮位の変化につれて垂直に上下する。

##### 初期沿岸氷 (Young shore ice)

沿岸氷の生成される初期の段階、軟氷または氷殻からなり、巾は数10m程度。

##### 氷脚 (Ice foot)

沿岸氷の一部分で海岸に直接凍りつき水位が変化しても上下しない部分。

### b. 流氷 (Drift ice)

#### 1. 流氷の形と大きさ

##### 氷原 (Ice floe)

大氷原 径10Km以上

中氷原 径2~10Km

小氷原 径0.5~2Km

氷原片 径100~500m

##### 氷板 (Ice cake)

大氷板 径100~500m

中氷板 径20~100m

小氷板 径0.5~2m

##### 砕氷 (Brash ice)

碎かれ削りとられた小さな氷片。

##### 氷岩 (Floe berg)

極度に氷丘化した氷塊。

発達初期の水、すなわち氷晶、氷泥、雪泥、綿氷、はず葉氷なども流氷に属する。

#### ロ. 流氷の配置

##### 大氷群 (Large ice field)

洋上に大量の氷塊の密集したもので径数10~数100Km、密接度7~8以上。